

魅力

白石市は、白石城の城下町。市街地の北部には、白石川が流れ、水と緑があふれています。

歴史は古く、旧石器時代の遺跡が6カ所から発見されているほか、古墳時代に作られた前方後円墳や円墳なども多く残っています。中でも鷹巣古墳群にある瓶ヶ盛古墳はこの地方最大の古墳。

慶長7年（1602年）には、仙台藩主・伊達政宗の軍師を務めていた片倉小十郎景綱が白石城の城主となり、現在の街並みの礎を築きました。

まちづくり

片倉小十郎がテレビゲームソフトや戦国武将ブームなどの影響で人気を集めたことから、白石市では小十郎を生かした町おこしを進めています。有志団体が小十郎グッズを販売したり、同市が小十郎のイラスト入りのバスを走らせたりしているほか、昨年10月には「鬼小十郎まつり」を開催。多くの観光客が訪れ、にぎわいを見せました。

歴史名所

【白石城】

白石城は、明治政府の廃城令により一度取り壊されましたが、平成7年、市民の強い願いが叶い、三階櫓（天守閣）と大手門が忠実に復元されました。三階櫓からは、白石市内を一望することができ、歴史のロマンを肌で感じられます。

城内は公園として開放されており、園内にある「白石城歴史探訪ミュージアム」では、白石城とその城下町を50分の1に復元した模型や片倉家ゆかりの甲冑、刀剣、火縄銃などが展示されています。白石市民がエキストラとなって撮影された立体ハイビジョンの歴史再現ビデオを見ることがもできます。

【傑山寺】

片倉小十郎邦憲が北海道への移住を決定する場となった傑山寺。景綱ら代々の城主とその家族のほか、白石村の開拓に尽力した佐藤孝郷らが葬られています。

景綱の墓は、敵に暴かれないうように、あえて墓石は置かず一本の杉を墓標にしたとい

われており、埋葬する際には、伊達政宗が武勲をたたえみずからの愛馬にそのひつぎを引かせたとされています。



▲片倉小十郎景綱の墓標とされる一本杉

【片倉家中武家屋敷】

片倉家の家臣の屋敷であったこの建物は、白石城の外堀に当たる沢端川に面しており、享保15年（1730年）に建築されたことが確認されています。

母屋は、かやぶき屋根の重厚な寄棟造り。茶の間、納屋、座敷を配した「広間型三間取」といわれる簡素な間取りです。



▲武家屋敷

伝統工芸品・物産

【弥治路こけし】

白石市の伝統工芸品の「弥治郎こけし」は、「伝統こけし」の10系統のうちの一つで、大きな頭の上部にろくろ模様があるのが特徴。子どものおもちゃとして作られたのが始まりで現在は観賞用として親しまれています。



▲白石市第一コーナー。展示されているこけしは、白石市役所2階展示室で展示している。白石区名産品展示室。

【白石温麵】

白石市名産の白石温麵は、江戸時代初めに白石に住んでいた鈴木味右衛門が、胃腸の弱い父親のため、旅の僧に教わった、油を使わない麵の製法を苦心の末会得して創始したもので、30年あまりの歴史があります。

白石区役所食堂でも提供していますので、ぜひお試しください。

【ころ柿（干し柿）】

白石市は、柿の産地でもあり「ころ柿（干し柿）」が名産。ころ柿に使われている「蜂屋柿」は、「柿の王様」といわれおり、大粒で形も良く上品な甘味が好まれています。

干し柿作り体験

浮島さんと山谷さんは、宮城県ころ柿出荷協同組合を訪問。干し柿作りを体験しました。

まず職員から説明を受けながら甘柿と干し柿用の渋柿の収穫に挑戦。その後、柿の皮むき作業など干し柿作りの手ほどきを受けました。

山谷さんは「皮むき作業は楽しくできました。甘柿はすごくおいしかった」と話していました。

挑戦する 採り柿 浮島さん



▲柿の皮むき作業

